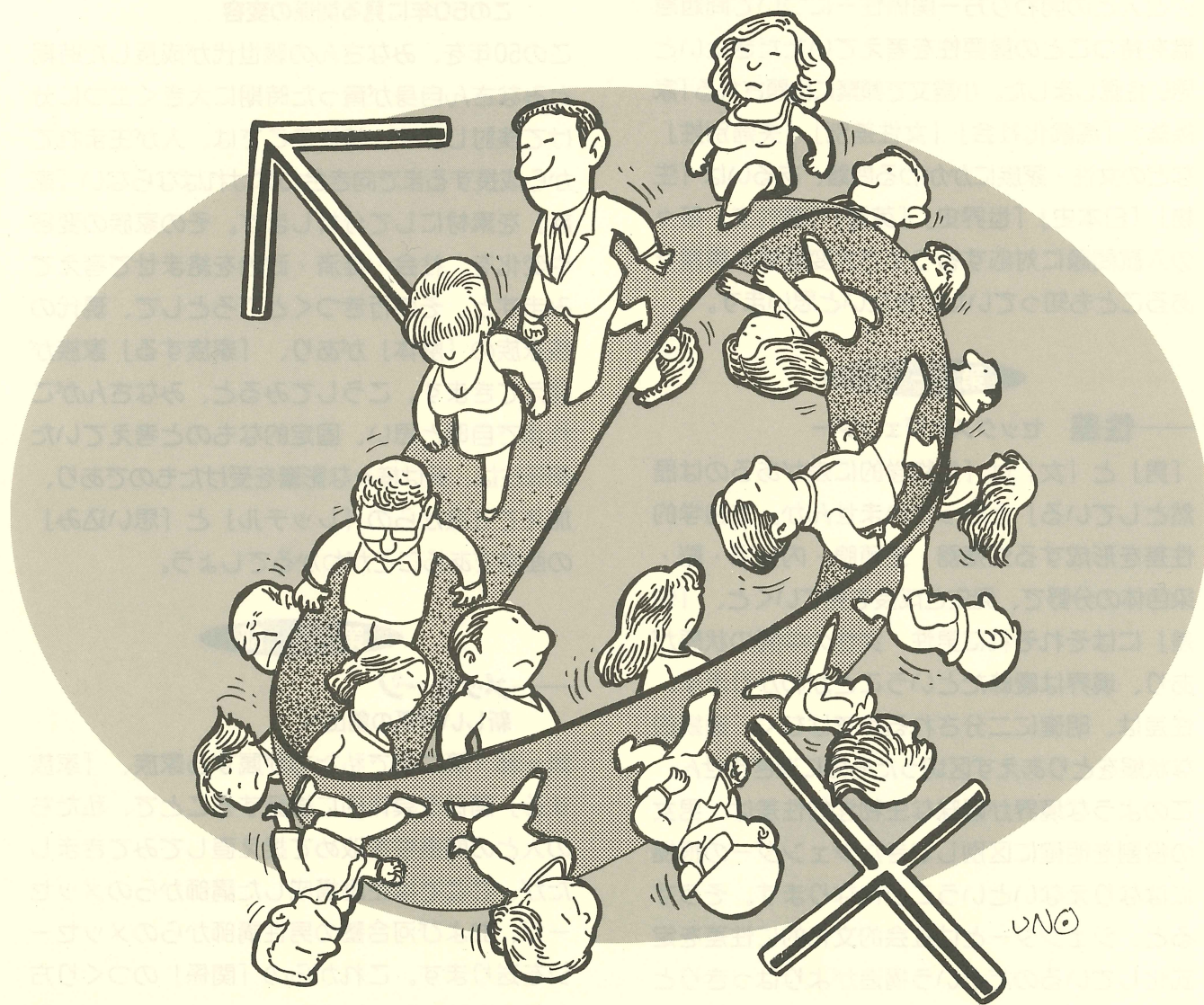


・'95サテライト文化講演会・

# おんなとおとこ

違い・出会い・すれ違い、そして...



◆日時：10月20日(金) 18:50～20:20

◆会場：各受信校サテライト教室

●出演

青木和子(日本史料)・井上朱美(小論文科)・

片山すみこ(日本史料)・都築佳枝(河合塾元生物科)

ビデオ出演/青木裕司(世界史料)・広川徹(小論文科)

●企画/構成：河合文化教育研究所

「女性論・男性論」研究会

## プログラム

### 第一部 性差

—セックスとジェンダー—

### 第二部 社会・家族・個人

—この50年に見る関係の変容—

### 第三部 メッセージ

—新しい関係の創出へ—

===== 河合サテライトネットワーク =====

# ’95サテライト文化講演会 おんなとおとこ

違い・出会い・すれ違い、そして…

この講演会はみなさんに性差などに関する正確な理解および友人・恋人・親子・家族といった人と人との関わり方—関係性—について問題意識を持つことの重要性を考えていただきたいと思い企画しました。小論文で頻繁に出題される「家族論」「高齢化社会」「女性差別」「夫婦別姓」などの女性・家族にかかわる問題、あるいは「生物」「日本史」「世界史」「英語」「現代文」等々の入試問題に対応するうえで大変重要な課題であることも知っていただきたいと思います。

## 第一部

### ——性差 セックスとジェンダー

「男」と「女」は「生物学的に差があるのは歴然としている」と思っていないですか。生物学的性差を形成する生殖器・生殖腺・内分泌・脳・染色体の分野で、発生と成長を見ていくと、「性差」にはそれぞれに男性・女性の間の中間の状態があり、境界は曖昧だということがわかります。性差は、明確に二分される差ではなく、連続的な状態をとりあえず区切ったものに過ぎません。このような境界が曖昧な生物学的性差は、男女の役割を明確に区別してきたジェンダーの根拠にはなりえないということになります。そうすると、ジェンダーとは社会的文化的に性差を定式化しているのだという構造がよりはっきりと見えるでしょう。さらに、このジェンダーは今後もその社会の状況によって変化していくことも理解できると思われます。

## 第二部

### ——社会・家族・個人

この50年に見る関係の変容

この50年を、みなさんの親世代が成長した時期とみなさん自身が育った時期に大きく二つに分けて検討します。特にここでは、人が生まれてから成長するまで向き合わなければならない「家族」を素材にして分析します。その家族の変容や変化を、社会・経済・政治を絡ませて考えてみますと、その行きつくところとして、現代の核家族の「解体」があり、「家族する」家族が見えてきます。こうしてみると、みなさんがこれまで自明と思い、固定的なものと考えていた関係性は、実は様々な影響を受けたものであり、加えて社会からの「レッテル」と「思い込み」の産物であることがわかるでしょう。

## 第三部

### ——メッセージ

新しい関係の創出へ

第一部・第二部で私たちが属する家族、「家族する」関係を具体的に検証することで、私たちの人との関係性を改めて捉え直してみましたが、ここでは企画構成した講師からのメッセージ、および河合塾の男性講師からのメッセージを送ります。これからの「関係」のつくり方を共に考えてみましょう。

——多数の参加を期待します。

■企画/構成：河合文化教育研究所

「女性論・男性論」研究会

青木和子（日本史科）・井上朱美（小論文科）・片山すみこ（日本史科）・金城和子（現代文科）・高由紀子（英語科）  
染谷玲子（生物科）・都築佳枝（河合塾元生物科）・永沼由扶子（地理科）・前田由紀子（化学科）  
本村繁子（小論文科採点担当）・門田路子（小論文科・カウンセラー）・吉田恵子（世界史科）/相京範昭

■制作協力：(株)オフィス ボウ